

令和3年11月5日

保護者の皆様

仙台市立長町小学校
校長 浅野 裕一

令和3年度 協働型学校評価の自己評価結果について

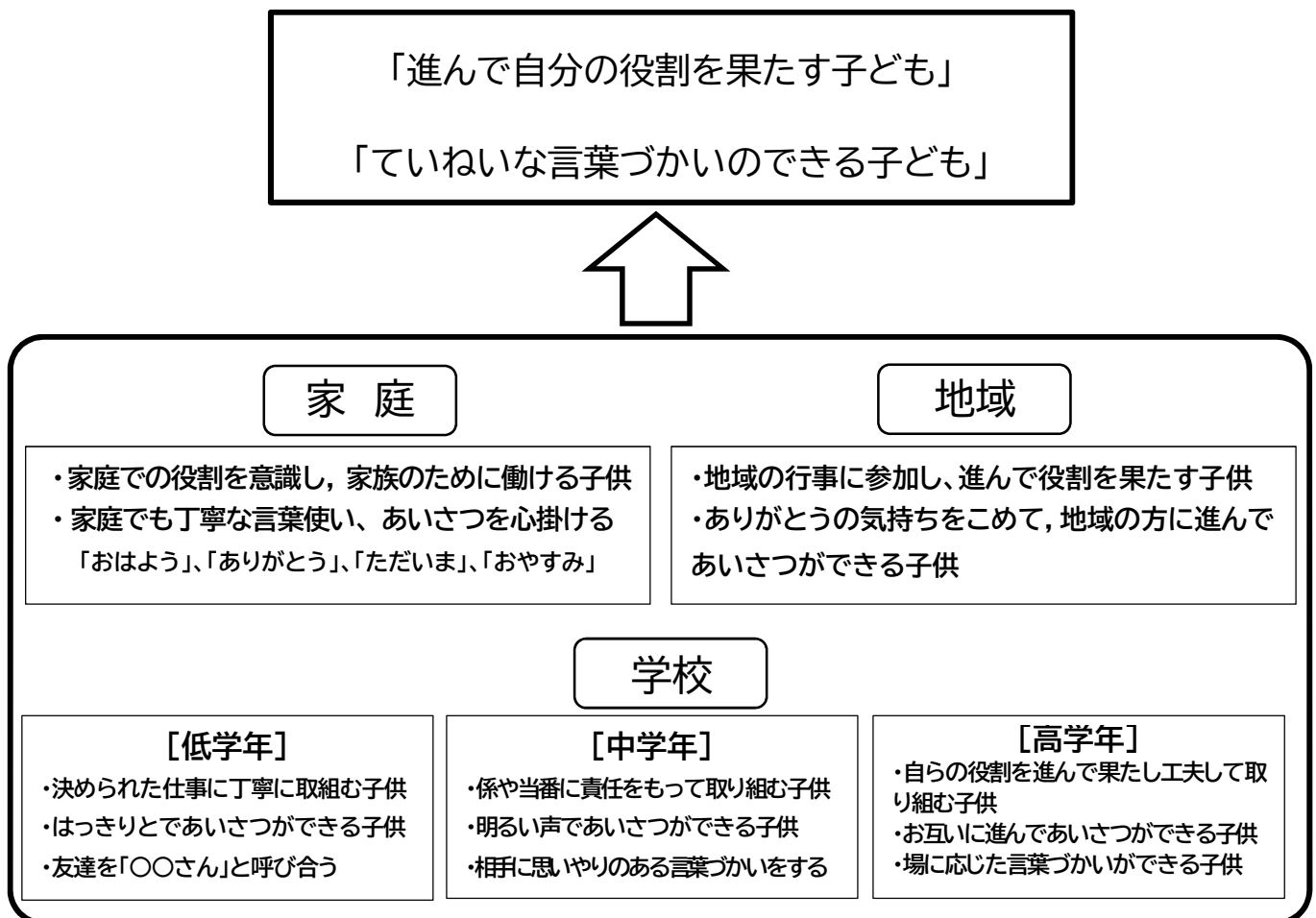
晩秋の候、保護者の皆様におかれましてはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より本校の教育活動にご支援とご協力を賜り感謝申し上げます。

さて、本校では、仙台市が「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」の適用を受ける中、新型コロナウイルス感染症の感染防止を徹底した上で教育活動を行って参りました。今年度は修学旅行や運動会、校外学習といった行事や授業参観など、分散開催による3密の回避や換気の徹底、日々の検温、マスクの着用等を行いながら実施することができました。保護者の皆様、地域の皆様の深いご理解と温かいご支援によりまして、徐々に活動内容を広げた教育活動ができましたことに深く感謝申し上げます。

1学期に行った保護者、児童、教職員のアンケート結果をまとめました。結果を真摯に受け止め、今後の教育活動に生かしていきたいと思っております。

1 今年度の協働型学校評価の重点目標

＜学校・家庭・地域 三者協働で育てていく望ましい子どもの姿＞



2 協働型学校評価に関する評価カードによる調査結果について

【家庭における努力目標について】

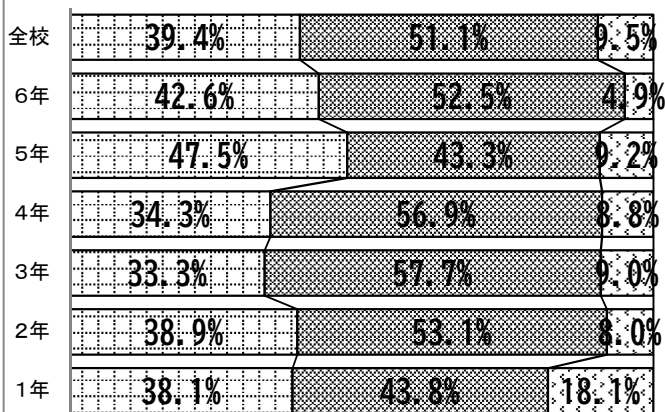
- ・家庭での役割を意識し、家族の一員として自分のできる仕事に毎日取り組むよう習慣付ける。
- ・家庭でも時や場所、状況に合わせた丁寧な言葉づかいを心掛ける。
- ・挨拶を進んで行わせ、周りの人に感謝の気持ちを持って生活させる。

1-A 家族のために・家族とともに（家庭での様子）

☆ 家庭で相談して決めた自分の仕事を、毎日あるいは定期的に責任を持って行う。（食器洗い・掃除等）

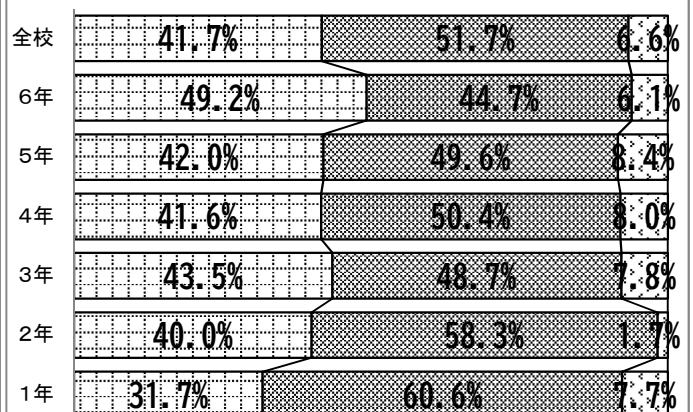
児童1学期 【グラフ1】

□ できた ■ だいたいできた ▨ できなかった



保護者1学期 【グラフ2】

□ できた ■ だいたいできた ▨ できなかった



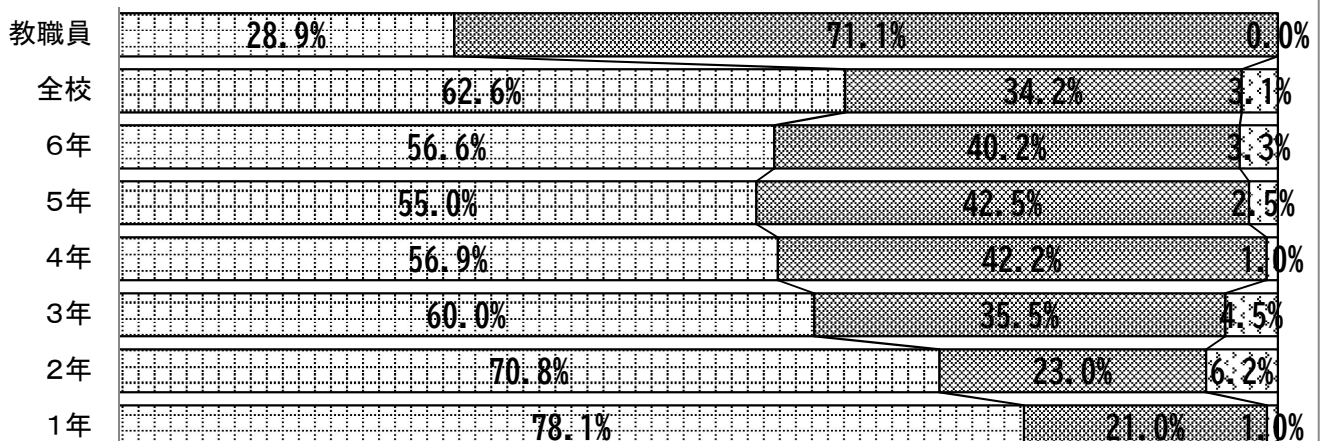
○児童も保護者も、「できた」「だいたいできた」が1年生以外は90%を超えており、肯定的な評価をしています。保護者がお子さんに家庭での役割を意識させていることや、児童も家族の一員として自分のできる仕事に取り組んでいることがうかがえます。また、1年生も保護者の90%以上、児童の80%以上が肯定的な評価をしており、1年生も自分の役割を意識して家庭での仕事に取り組んでいることがうかがえます。

☆ （学校で）係や当番の仕事を、責任を持って行う。

児童・教職員1学期

【グラフ3】

□ できた ■ だいたいできた ▨ できなかった



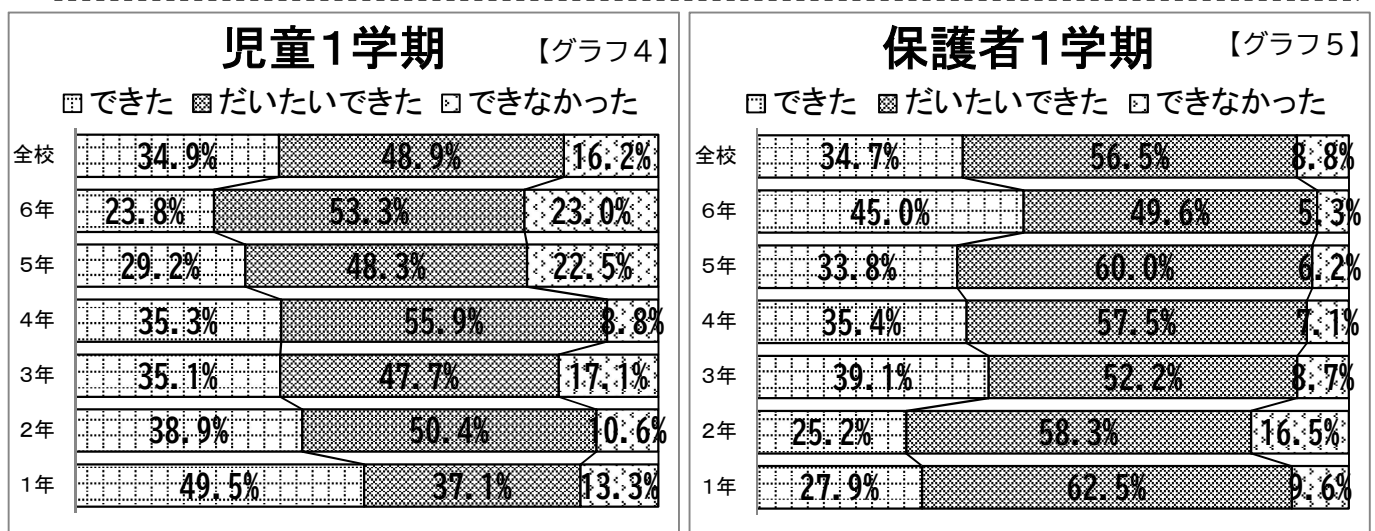
保護者も児童も肯定的な意見が多かったことから、各家庭で、自分の役割を認識させ、継続して取り組めるように声を掛けたり、励ましたりしていることがうかがわれます。

学校生活においても、児童、教職員とも「できた」「だいたいできた」が90%を大きく超えており、自分の役割を意識して学級や委員会等の仕事に取り組んでいることがうかがえます。児童の「できた」の割合がどの学年も50%を超えているのに比べ、教職員は30%弱になっており、「進んで取り組む」ことに対して、更に伸ばしていきたいと考えています。

学校では、今後も学級での係や当番活動、所属する委員会、たてわり活動などで自分の役割を意識させ、責任を持ち、進んで物事に取り組めるように働きかけて行くとともに、取り組んだ課程や結果について認め、励ましていこうと考えています。

2 思いやりの気持ちを持って

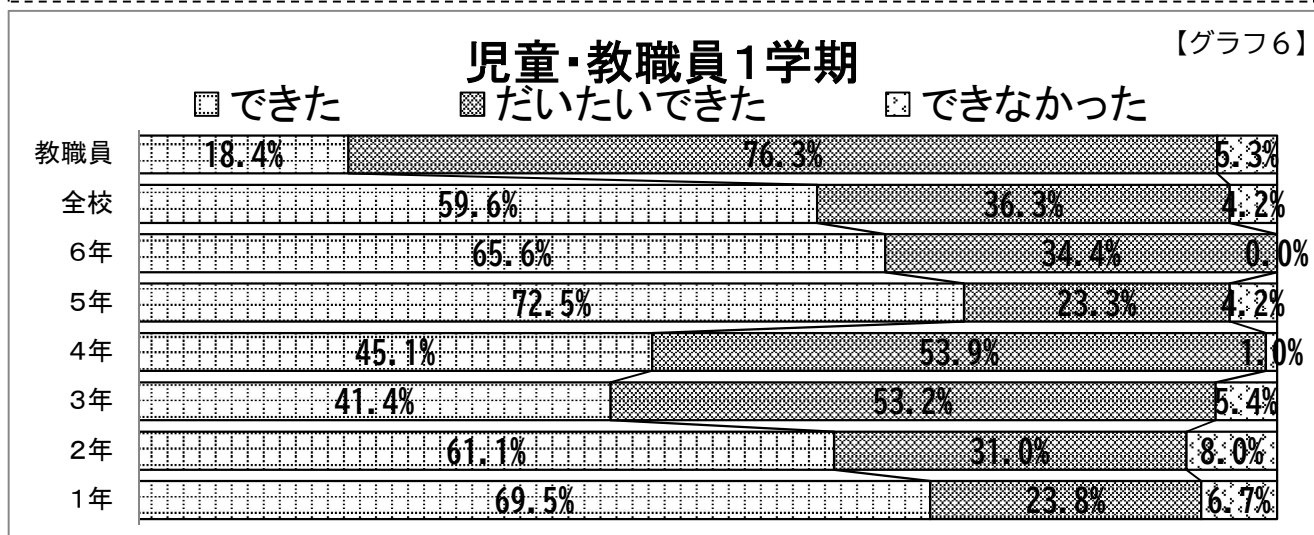
☆丁寧な言葉づかいを心掛ける。(時や場所、状況に応じた言葉づかい)



○全校で見ると保護者の「できた」「だいたいできた」の肯定的評価が2年生を除いて90%以上あります。毎日顔を合わせ、親しみ合っている家族間では、丁寧な言葉遣いは崩れがちなものですが、家庭での言葉遣いにも高い意識を持って取り組んでいただいていることがうかがえます。

一方で、児童は、全校で見ると16.2%の児童が「できなかった」と答えています。特に5、6年生は20%以上が「できなかった」と答えており、丁寧な言葉遣いについて課題意識を持っていることが分かります。

☆(学校で)相手に思いやりのある言葉遣いをする。

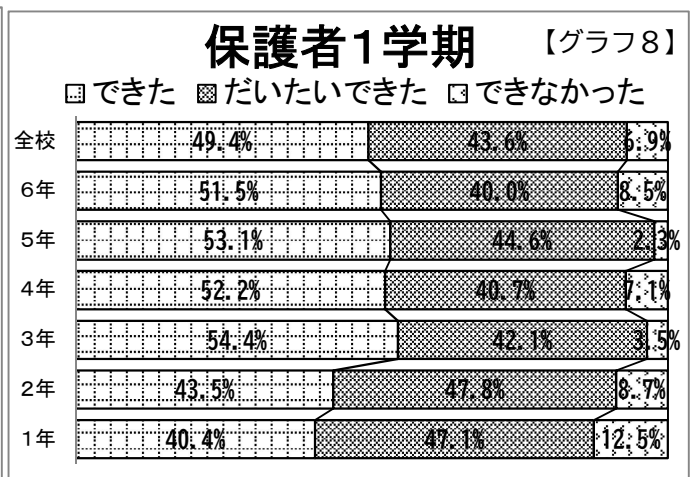
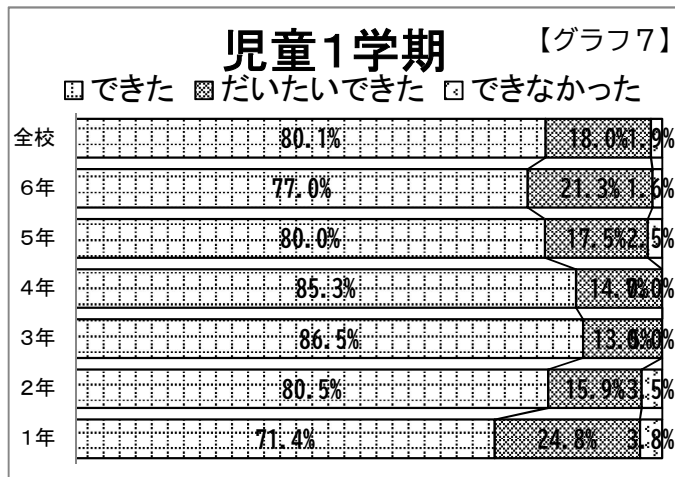


学校での丁寧な言葉遣いについては、児童の「できた」「だいたいできた」が全校で96%と肯定的評価が多く見られます。家庭より学校で丁寧な言葉遣いに気がつけていることがうかがえます。学年によりばらつきが見られますが、「できた」の割合が40%から70%となっています。

一方、教職員は「できた」は20%弱となっています。学校では、良好な人間関係を築く上でも、丁寧に、相手の気持ちを考えた言葉づかいができる子供をこれからも育てていきたいと考えています。また、友達を「〇〇さん」「〇〇ちゃん」のように呼び捨てにせず丁寧な言葉遣いで接するように指導しています。

3 家族や地域の方へ

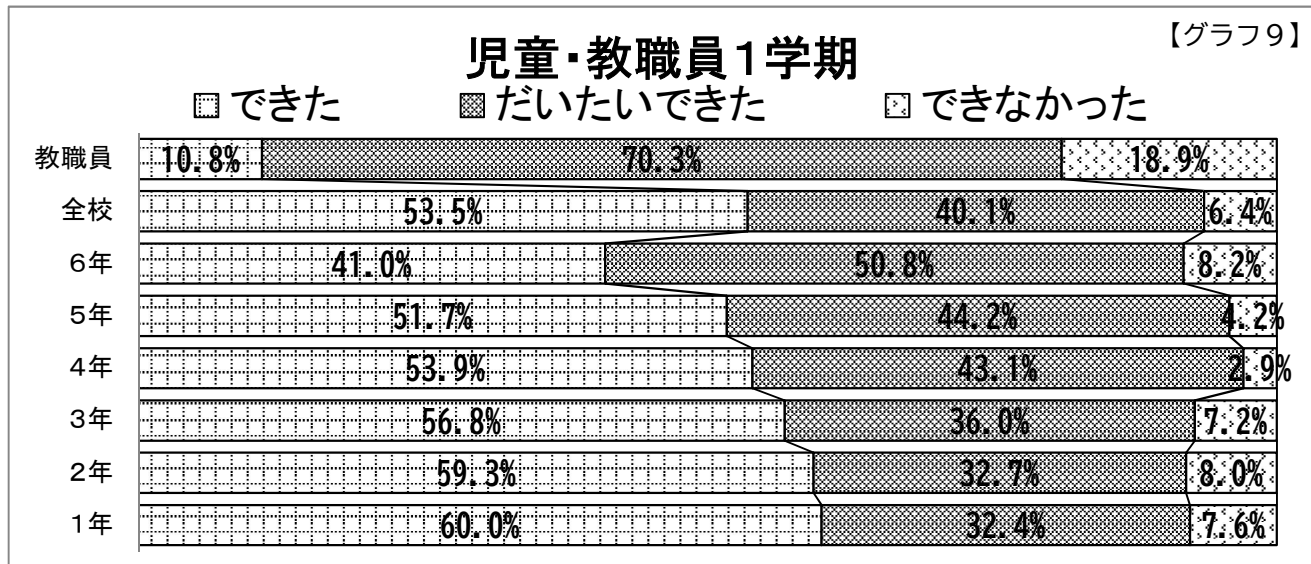
☆家族や地域の方に進んで挨拶をする。感謝の気持ちを持って生活する



○1年間を通じて保護者の「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が全校で93%と非常に高い項目となっています。多くの学年の保護者が、挨拶がよくできていると感じていることがうかがえます。

○児童も、「できた」と「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が全校で98%以上となっており、学年別に見ても全ての学年で「できた」が70%を超えており、挨拶への意識を強く持ち、積極的に取り組んでいることがうかがえます。

☆（学校で）お互いに進んで挨拶をする。



保護者も児童も肯定的な意見が多かったことから、各家庭で、挨拶への意識を高く持ち、しっかり挨拶するように声を掛けたり、励ましたりしていることがうかがわれます。

教職員は、「できた」「だいたいできた」を合わせた肯定的な割合が80%あるものの、「できた」は10%に留まっています。相手に感謝の気持ちを持ち、目を合わせて気持ちのよい挨拶をすることについてはもう一歩と捉えています。

学校では、挨拶はコミュニケーションの第一歩であり、気持ちのよい挨拶は相手の心を非常に和ませる大切なものであると考えています。相手意識を持った挨拶が大切であることを理解させるとともに、朝、帰りの挨拶、授業の始まりと終わりにきちんと挨拶する習慣を身に付けるように指導しています。

今後も「笑顔と挨拶のあふれる学校と地域」を目指して取り組んでいきたいと思っています。

教育目標に関するアンケート調査結果について

本校では、教育目標である「心豊かにたくましく、進んで学び、共に高め合う長町の子供」を受け、目指す児童像を設定し、日々の教育活動に取り組んでいます。今年度も下記の3つの項目において、児童と教職員がどの程度達成されていると感じているかをアンケートにより調査しました。保護者からは12月末のアンケートで調査します。

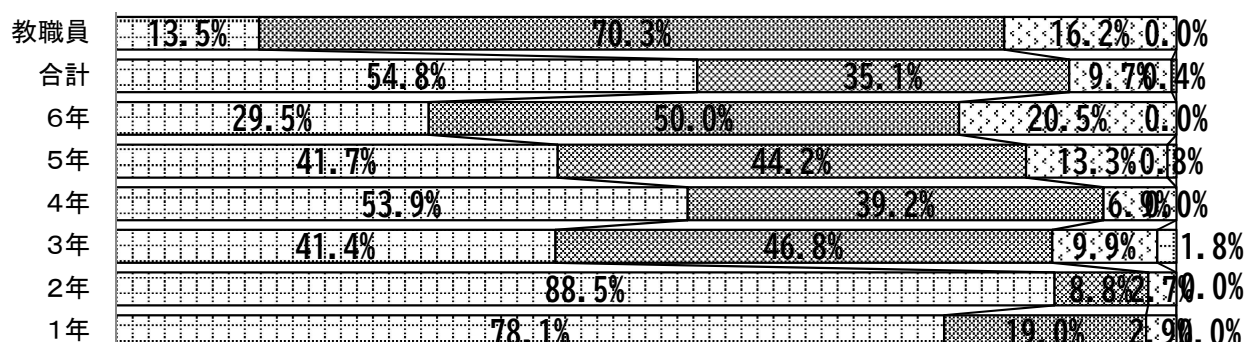
1 思いやりのある子

【低】友達と仲良くできる子 【中】助け合い、協力して活動する子 【高】相手の気持ちや立場を考えて行動する子

児童・教職員1学期

【グラフ10】

□ 達成されている ■ ほぼ達成されている ▨ あまり達成されていない □ 達成されていない



児童は「できた（達成されている）」「だいたいできた（だいたい達成できている）」の回答が全校で約90%となっています。昨年度の約60%から大きく向上しています。昨年度は、コロナ禍の中、ほとんどの学校行事を中止し、3密を徹底して回避したために子供たち同士のコミュニケーションの機会は例年よりも減少せざるを得ませんでした。今年度は、感染防止策を徹底しながら、学校行事やたてわり活動等、様々な活動をやり方を工夫して取り組んできました。子供たち同士のコミュニケーションを豊かにする一因になったのではないかと考えています。

学校では、今後も感染症対策を十分に行いながら、子供たちがともに頑張る活動を増やしていきたいと考えています。道徳や学級活動、学校行事、たてわり活動などを通して、相手の個性を尊重し、互いのよさを認め合い、思いやりの気持ちを持ってかかわる子供たちを育てることを目指して、日々取り組んでいきたいと考えています。

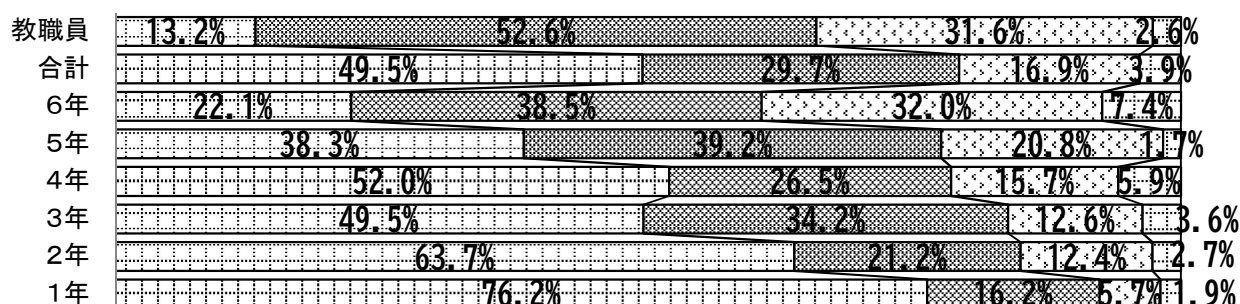
2 たくましい子

【低】外で元気に遊ぶ子 【中】進んで体をきたえ、元気に運動する子 【高】進んで体をきたえ、ねばり強く頑張る子

児童・教職員1学期

【グラフ11】

□ 達成されている ■ ほぼ達成されている ▨ あまり達成されていない □ 達成されていない



児童は「できた（達成されている）」「だいたいできた（だいたい達成できている）」の回答が全校で約80％となっています。昨年度の約50％から大きく向上しています。昨年度は、コロナ禍の中、当初は感染防止のために遊具の使用や放課後の遊びを禁止にしていました。また、体育でも休み時間でも密集するものは避けて行わざるをえませんでした。今年度は、感染防止策を徹底しながら、休み時間や放課後等の遊びの場を開放し、体育でも、運動会の練習や授業の中で運動量の確保に努めました。

一方で、児童の約20％、教職員の約30％が「あまりできなかった（あまり達成されていない）」「できなかった（達成されていない）」と評価しています。依然として、3密を回避しながらの活動であったことから、やむを得ない部分もあると考えています。

学校では、今後も感染防止策を徹底しながら、授業での運動量の確保や、質を高めること、運動の楽しさを味わえる授業づくりを行っていきたいと考えています。また、状況に応じて、活動のあり方を見直していきたいと考えています。

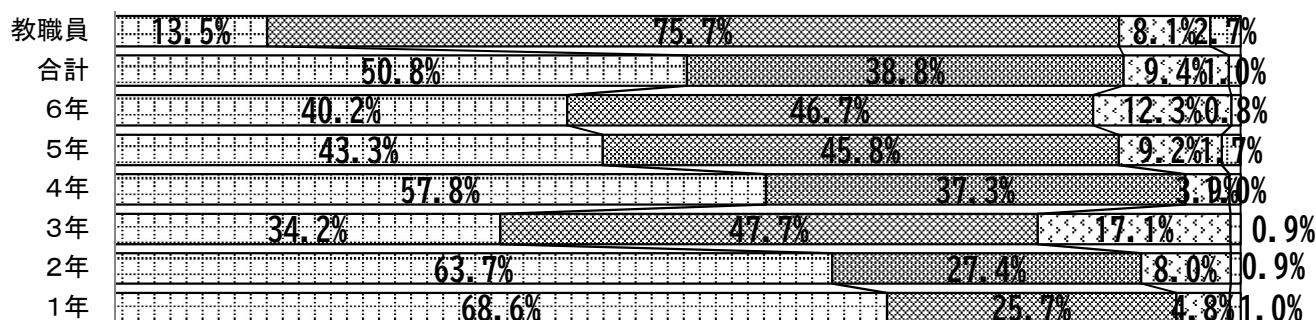
3 共に学び合う子

【低】よく見て、よく聞いて学習する子 【中】話をよく聞き、よく考え学習する子 【高】共に学び、意見を出し合いながら高め合う子

児童・教職員1学期

【グラフ12】

□ 達成されている ■ ほぼ達成されている □ あまり達成されていない □ 達成されていない



全校では児童の約90％が「できた」「だいたいできた」と肯定的な評価をしており、昨年度の約65％から大きく向上しています。また、教職員も約90％が肯定的な回答をしています。

授業中の教室を見て回ると、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでおり、「話をよく聞き、よく考えて」学習しています。今年は、マスク着用、十分な換気、正面同士の対面を避け互いの距離をとることを行った上で、お互いに意見を出し合う対話的な学習をする機会を徐々に増やしてきています。ICT機器を使って交流を図る試みも行われ始めています。

今後も、状況を見ながら、互いの意見を出し合い、学び会える工夫した授業づくりを検討し、子供たち自身が「共に学び合う」ことを実感できるようにしていきたいと考えています。

学校の自己評価結果を踏まえた学校評議員・学校関係者評価委員のご意見

学校の自己評価に対して、過日行われた学校評議員・学校関係者評価委員会において、委員の皆様から御意見をいただきました。以下に、主なものを紹介します。

協働型学校評価について

〔進んで自分の役割を果たす〕

- ・高学年は自ら進んで行っている様子が見られる。
- ・児童館で、調理実習や花壇の整備をするときに「それできるよ。」「次は何?」と進んで行っていた。自分から、できることを発信している姿が頼もしい。
- ・長町中の先生からも、「長町小の子は甘えないよね。」という話を聞いた。
- ・運動会でも、高学年は自分たちで準備・運営をしていて立派だった。

〔丁寧な言葉遣い・挨拶〕

- ・家庭でも言葉使いに気を付けさせたい。テレビや漫画の影響で言葉遣いが悪くなったことがあった。
- ・どこで会っても挨拶をしてくれる子が多く、うれしい。
- ・挨拶がすごくできている。特に中・高学年。学校としての取組としていることを感じる。
- ・高学年の挨拶はとてもすばらしい。中学年では一人一人立ち止まりながら挨拶をしている子供もいて礼儀正しい。学校としての取組がよいからだ。

学校の重点目標について

〔思いやりのある子〕〔たくましい子〕〔共に学び合う子〕

- ・1回目(6月)の授業参観よりも、子供たちの落ち着きが深まっている。学級経営の中で学級規律がしっかりできているからだと思う。
- ・「共に学び合う子」の児童の自己評価が高いのは、先生方の努力の成果である。先生と子供たちの評価の違いを埋めていくことが今後の課題になる。
- ・授業の様子を見て、学年が上がるにつれて、姿勢よく集中して話を聞くこと、意見をよく言うことができていると感じた。
- ・3年生以上の授業を受ける姿勢、友達の意見をよく聞く態度がすばらしい。
- ・2年生は、音楽室に集まっていたが、多少がやがやしていても集中していた。歌もきれいだ。

その他

〔安全〕

- ・道路でのボール遊びなどに夢中で自分の安全にがよろそかになることがあった。
- ・特に自転車の乗り方で飛び出しなど危険な様子が見られた。学校でも交通ルール of 徹底など声掛けをしてほしい。

〔ゲーム、スマホ、タブレット等〕

- ・小学生からスマホ、タブレットなどにより生活リズムが狂うのは怖いと思った。家庭で声掛けしないといけないことに気が付いた。
- ・スマホなどの影響として、大人でもずっとすると集中力が無くなる実感がある。時間やルールの徹底が必要だと感じる。

〔学校行事〕

- ・学校でたくさんの行事を行っていただいていることに感謝している。家庭だけでは育むことができない友達や先生との人間関係を育てていただいていることはありがたい。

〔児童館〕

- ・児童館は福祉施設なので学校とは違う取組をしているが、学校の協働型の目標の中で児童館でもできる取組を職員に伝えている。
- ・児童がアンケートで「できなかった」と評価をしている項目は、児童館でも自分に自信を持てる経験をさせてあげたい。
- ・2年生の学級発表会の練習を見て、声がきれいと感じた。この会で出た意見を児童館に持ち返って、子供たちを褒めてあげたい。

〔その他〕

- ・子供たちは、大人をきちんと見ている。大人もきちんとした態度をしていかないといけない。